

東亜グラウト工業

長距離圧送管を洗浄

アイスシャワーピグ工法 三條市でデモ施工

新潟県が10月17日に三年度第2回市町村下水道条市内で実施した平成26年度事業担当職員研修会において、東亜グラウト工業(大岡脩三社長)がアイスピグ管内洗浄工法のデモ施工や圧送管路の維持管理技術の説明を行った。研修会には県内の上下水道関係職員ら約50人が参加し、デモ施工等に関心を寄せた。



アイスシャワーピグの汚れを確認

を寄せた。昨年、県の流域下水道では、硫化水素に起因した圧送管の破損が発生しており、圧送管の維持管理手法を模索していた。そこに同工法の存在を知り、県下市町村の維持管理手法の知見集積も兼ねて同社への依頼となった。

アイスピグ管内洗浄工法は水と水を体積比8対2で配合した特殊アイスシャワーピグをピグとして使用し、夾雑物や赤サビをソフトに除去する工法。アイスシャワーピグを使用するため、口径の変化や曲がり、伏越部にも対応する。

今回のデモ施工では、同市笹岡付近に布設されている下水マンホールポンプ配管(φ800×185)が対象。現場は給食センターから排水流入があるほか管路の曲がりによる流量低下が発生しやすい箇所のため、市も定期的な維持管理を実施するものの改善に苦慮していた。

デモ施工では、トリバリユニット(2・2寸)1台を用いて、約1時間で注入回収を実施。参加者は回収口から出てくるピグの汚れの変化を見つつ、短時間での流量改善に見入っていた。

施工場所を提供した三條市の長野義弘・上下水道課長は「本市はまだまだ未普及改善に注力している状況だが、維持管理業務に関する知見の蓄積も今後、課題となってくる。今回のデモ施工から、新たな維持管理手法についての知見を吸収できたい」となどと経緯を説明した。

また、同工法に使用する特殊アイスシャワーピグは製氷機のある関東、中部、関西の3大都市圏から3時間以内の地域が輸送可能エリアとなるが、今回のデモ施工では長岡科学技術大学(長岡市)に製氷機を移設することで施工に対応した。製氷機の移設により九州地方や東北地方等の現場でも同工法による洗浄が可能だ。